SELinux Policy Editor(seedit) インストールガイド 2.1

中村　雄一*

February 13, 2007

Contents

1 動作環境 **2**

2 インストール **2**
- 2.1 rpm パッケージのインストール (Fedora Core の場合) 2
- 2.2 rpm パッケージのインストール (Cent OS の場合) 3
- 2.3 アンインストール 4

3 何が影響されるか？ **4**

4 動作確認 **4**
- 4.1 GUI で動作確認 4
- 4.2 コマンドラインで動作確認 4
- 4.3 次は何をする？ 5

*himainu-ynakam@miomio.jp

このドキュメントは、SELinux Policy Editor のインストール方法を解説しています。

1　動作環境

Fedora Core6 および Cent OS 4.3 での動作を確認しています。Fedora Core 5 でも動く可能性は高いです。

2　インストール

利用ディストリビューションによってインストール方法は違います。

2.1　rpm パッケージのインストール (Fedora Core の場合)

SEEdit は、Fedora Extras に含まれているため、簡単にインストールできます。

```
#yum install seedit-gui
(seedit,seedit-policy,seedit-gui パッケージが導入されます)
```

GUI が不要な場合は、以下のようにします。

```
#yum install seedit-policy
(seedit,seedit-policy パッケージが導入されます)
```

SEEdit を初期化し、リブートします。

```
# /usr/sbin/seedit-init
# reboot
```

/usr/sbin/seedit-init は seedit を使うための初期化作業をしてくれるコマンドです。/etc/selinux/config の編集、auditd の起動、ポリシの初期化などを行ってくれます。
再起動時、ファイルのラベルが自動的に付与され直しされます。数分かかります。その後、リブートされます。Fedora Core 6 の場合、さらにもう一度リブートがかかります (途中で画面が青くなっても問題はありません)。

無事ログインできたら、完了です。
なお、auditd サービスが起動するようになっています。これは詳細な SELinux のログを/var/log/audit/audit.log に取ることができ、ポリシ自動生成機能をより便利に使うために必要ですので、このサービスは有効にしておくことを強く薦めます。
これでインストールは終わりです。インストールされているか確認するには、4 章を参照してください。

2.2 rpm パッケージのインストール (Cent OS の場合)

RPM パッケージを使うことで簡単にインストールできます

(1) 必要なパッケージ
checkpolicy,audit パッケージが必要です。以下でインストールしておきます (CentOS ではデフォルトで入っています)。

```
# yum install checkpolicy audit
```

(2) ファイルを入手
以下より、seedit,seedit-policy,seedit-doc, seedit-gui パッケージを入手します。X Window System が入ってない場合は、seedit-gui はダウンロードしません。

```
http://seedit.sourceforge.net/ja/download.html
```

seedit パッケージには、SEEdit の中核をなすライブラリやコマンド群が入っています。seedit-policy には、サンプルのポリシ (SPDL で書かれた単純化ポリシ) が入っています。seedit-gui には、GUI が入っています。

(3) rpm パッケージをインストール
入手した rpm パッケージを以下のようにインストールし, リブートします。

```
$ su  -
# rpm -ivh seedit-*.rpm
# /usr/sbin/seedit-init
# reboot
```

/usr/sbin/seedit-init は seedit を使うための初期化作業をしてくれるコマンドです。/etc/selinux/config の編集、auditd の起動、ポリシの初期化などを行ってくれます。
再起動時、ファイルのラベルが自動的に付与され直しされます。数分かかります。その後、リブートされます。Fedora Core 6 の場合、さらにもう一度リブートがかかります (途中で画面が青くなっても問題はありません)。

無事ログインできたら、完了です。
なお、auditd サービスが起動するようになっています。これは詳細な SELinux のログを/var/log/audit/audit.log に取ることができ、ポリシ自動生成機能をより便利に使うために必要ですので、このサービスは有効にしておくことを強く薦めます。

(4) CentOS 4 の注意点
CentOS 4 の SELinux パッケージに含まれるラベル初期化コマンド (fixfiles) のバグにより、初期化がうまくいかないことがあります。具体的には、「今までに strcit ポリシーを使ったことがある」または「RBAC を有効にしたことがある」場合は、以下のコマンドで初期化する必要があります。

```
# setfiles /etc/selinux/seedit/contexts/files/file_contexts  / -F -vv
# reboot
```

(5) インストールは終わりです
インストールされているか確認するには、4 章を参照してください。

2.3 アンインストール

アンインストールは簡単です。

```
# rpm -e seedit-policy seedit
# reboot
```

再起動時、SELinux の targeted policy(Fedora Core デフォルト) の、permissive モードで起動します。

3 何が影響されるか？

インストールによって、/etc/selinux/config が以下のように編集されます。

```
SELINUX=permissive
SELINUXTYPE=seedit
```

それ以外は、既存のシステムに影響を及ぼしません。

4 動作確認

seedit が正しくインストールされているか否かは、GUI およびコマンドラインから確認可能です。

4.1 GUI で動作確認

Gnome のメニューから、システム → 管理 → SELinux Policy Editor、を選択します (Fedora Core6 の場合。何か端末を開き「seedit-gui」と入力しても起動します)。root ユーザーのパスワードを入力すると、図 1 のような画面が現れます。

ここから、ステータスを選択すると、図 2 のような画面が現れます。*seedit*がインストールされている？　はいと表示されればインストールは成功です。

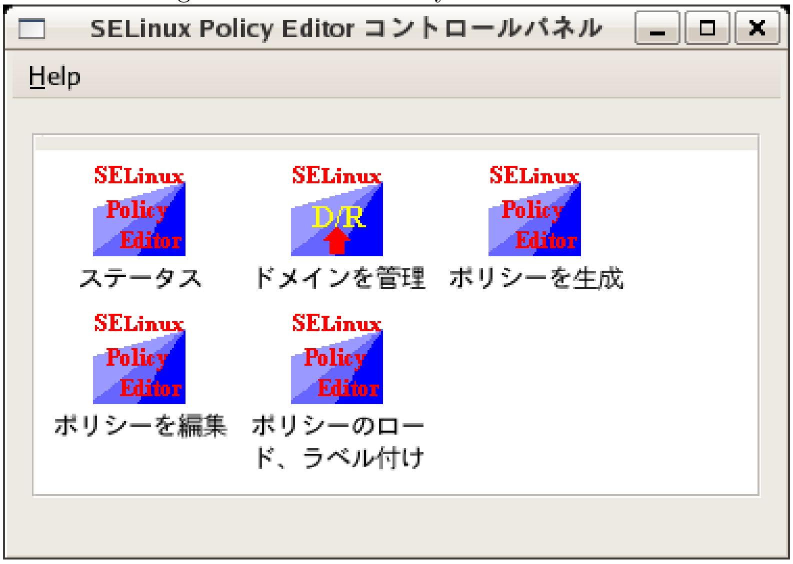
4.2 コマンドラインで動作確認

次のような出力になれば成功です。

```
# sestatus
SELinux status:                 enabled
Current mode:                   permissive
Mode from config file:          permissive
...
Policy from config file:        seedit
```

「Policy from config file: seedit」となってます。

Figure 1: SELinux Policy Editor コントロールパネル



4.3 次は何をする？

どうやって設定をしていくかの詳細は「SELinux Policy Editor 管理ガイド（マニュアル）」を参照してください。また、インストール直後は、Permissive モードになっていることに気を付けます。Permissive モードでは、SELinux はシステムを守ってくれません。実運用時はどうするかについても、管理ガイドに載っています (Enforcing モードに切り替えます)。

Figure 2: Status